

## 器楽専攻ピアノコース 3 ポリシー

### ディプロマ・ポリシー

#### ■ 人材育成目標

器楽専攻ピアノコースでは以下に挙げる人材の育成を目指しています。

- ・ピアノ演奏芸術を専門家として深く理解し、表情豊かな演奏表現を迫及できる人
- ・演奏、教育、音楽研究等の幅広い分野で専門家としての力を発揮し、広く社会に貢献できる人
- ・国際的な芸術活動を行うための技量と人間性を持った人
- ・音楽の素晴らしさを社会に広めることのできる人

#### ■ 卒業までに身につけるべき資質・能力

- ・個性を生かした表現力と専門家としての音色の獲得
- ・音楽作品に対する専門的な見識、及び多様な価値観に対する理解力
- ・独奏、アンサンブル、伴奏など多様な演奏活動に対応できる力
- ・広い視野を持って自らを成長させる力

#### ■ 学位の授与方針と評価方法

最終年次の「卒業演奏」を含めた所定の単位を修得した学生を卒業と認め、学士の学位を与えます。

- ・所定の在学期間の確認、必要単位修得の確認
- ・卒業演奏の評価・・・専門実技の学修成果を総合的に審査する「卒業演奏」では、各学生の演奏を複数の教員が様々な視点から個々に採点し、それらの集計結果により評価を決定します。

### カリキュラム・ポリシー

#### ■ 教育課程の編成方針

一对一の個人指導による専門実技授業、伴奏や室内楽などのアンサンブル授業、多くの演奏体験、そして音楽に関する専門知識を修得する理論系授業、これらによってピアノ奏者として必要な表現力と知識及び自らを成長させてゆく力を身につけられるようカリキュラムを編成します。

#### ■ 具体的なカリキュラム構成と特徴

1 年次から 4 年間一貫して行われる充実した個人レッスンで各自の実力と個性を伸ばすための学習を行います。

- ・毎年度、学内の演奏会場にて演奏試験を行い、専門実技の学修成果を評価します。試験課題はバロック、古典派、ロマン派、近現代と、4 年間で様々な時代様式の作品を学びます。
- ・3 年次では任意のピアノ協奏曲全楽章を課題とする実技試験、及び 30 分以内の独奏作品を演奏する「学内発表」が必修とされ、演奏経験を通して専門能力の向上を図ります。
- ・また歌曲／器楽伴奏法、ピアノ合奏、室内楽、といったアンサンブル実習授業も設け、色々な視点から演奏を考察、実践して応用力を身につけるとともに、外国人客員教授や外来のアーティストによるレッスンや特別講座、提携校への派遣留学制度などにより、国際的な学修経験を積む機会が設けられています。

#### ■ 教育課程の評価方針・方法

- ・専門実技試験では、各学生の演奏を複数の教員が様々な視点から個々に採点し、それらの集計結果により評価を決定します。
- ・その他の授業科目については、各科目の担当教員がシラバスに定めた方法によって評価します。

### アドミッション・ポリシー

#### ■ 求める人物像

- ・視野を広く持ち、実力を伸ばすために精進できる人
- ・音楽への興味を持ち、ピアノ演奏を通して音楽芸術全般に積極的に関与したい人

■入学前に身につけてほしい学習成果

○基礎的な演奏表現能力（音楽に対する感受性、表現力、演奏技術、暗譜力、読譜力）日々の練習の際に心がけてほしい点（参考例）

- ・音に対する感性を大切にしたい勉強
- ・感じたことを表現しようとする姿勢
- ・音階、アルペジオをはじめとする継続的な基礎技術の学習
- ・できる限り多くの作品を勉強すること
- ・様々なジャンルのクラシック音楽に親しむこと

○音楽の基礎的能力（ソルフェージュと楽典の基礎）

○基礎的な学力・・・外国語や一般教科の学習にもできる限り力を入れて下さい。

■入学試験の基本的な方針・考え方

【一般入学試験】

- ・専門実技試験の結果に加え、音楽の基礎的能力試験（ソルフェージュ、楽典）と大学入試センター試験（外国語、他）の結果を総合して合否を判定します。
- ・専門実技試験では、演奏家としての資質、技術、表現力をみます。受験者一人一人の独奏を複数の審査員が様々な視点から個々に採点し、それらを集計した結果により評価を決定します。